



R.Kaji

## THE KOKURA JUMP STAKES

## 第27回 小倉ジャンプステークス (J・GIII)

1着	2着	3着	4着	5着	
本賞	30,000,000円	12,000,000円	7,500,000円	4,500,000円	3,000,000円
付加賞	490,000円	140,000円	70,000円		



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 4歳59kg、5歳以上60kg、牝馬2kg減、J・G I競走1着馬2kg増、J・G II競走1着馬1kg増

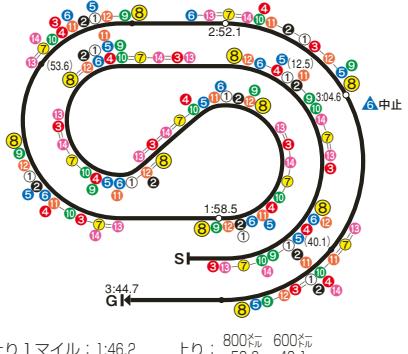
2025.2.15 小倉 晴・良 芝3390m (直合)

種 騒	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 ハロン(増減)	馬体重	単勝	オッズ	調教師
1 ⑥	スマイルスルー	牡5	60	高田 潤	3:44.7	1-1-1-1	13.3	524(+6)	1.61	齊藤崇史(栗東)	
2 ⑤	サイード	驕6	60	小坂忠士	5-4-2-2	13.3	496(-6)	15.50	角田晃一(栗東)		
3 ⑨	サベラヴィ	牡8	60	江田勇亮	2-2-2-3	13.3	494(+4)	18.50	南田美知雄(美浦)		
4 ③	アランデル	驕7	60	上野 翔	3-11-9-5	13.3	542(+6)	13.04	大竹正博(美浦)		
5 ⑫	ビーターサイト	牡5	60	大江原圭	1½	3-3-4-4	13.3	480(+6)	181.30	村田一誠(美浦)	
6 ⑯	バーリーブラック	牡5	60	草野太郎	1½	12-12-11-8	13.4	480(+2)	85.00	伊坂重信(美浦)	
7 ②	ブラックボイス	牡6	60	石神深一	3½	5-6-7-6	13.4	518(+6)	6.30	宮田敬介(美浦)	
8 ⑩	ドゥラモンド	牡7	60	森 一馬	1½	10-11-9-8	13.4	502(+8)	42.70	手塚貴久(美浦)	
9 ④	ティエムタツマキ	牡7	60	黒岩 悠	7½	8-9-9-8	13.4	508(-4)	36.00	武 英智(栗東)	
10 ⑦	ザレストノーウェア	牡7	60	伴 啓太	7	12-12-12-12	13.5	476(+2)	136.90	新開幸一(美浦)	
11 ①	アサササゲンキ	驕10	60	小牧加矢太	1¾	4-4-6-6	13.5	478(+2)	6.10	音無秀孝(栗東)	
12 ⑪	エンデュミオン	牡8	60	小野寺祐太	大差	8-7-8-11	13.7	470(+10)	34.10	清水久詞(栗東)	
13 ⑯	サクラトップラン	牝6	58	田村太雅	大差	14-14-13-13	13.8	472(-4)	311.80	中尾秀正(栗東)	
中止 ⑥	ナリノモンターニュ	牡8	60	五十嵐雄祐	7-7-14		524(+6)	62.60	上原博之(美浦)		

単勝①160円(1番) 櫻勝⑧110円(1番) ⑤280円(4番) ⑨300円(6番) 枠連④-⑤850円(5番)

馬連⑤-⑧1,080円(4番) ワイド⑤-⑧480円(3番) ⑧-⑨480円(4番) ⑤-⑨1,940円(21番)

馬單④-⑤1,340円(5番) 3連複⑤-⑧-⑨3,860円(12番) 3連単④-⑤-⑨10,560円(29番)



上り 1マイル : 1:46.2 上り : 800m 52.6 - 40.1

### アラカルト

- 高田潤騎手はメイショウブシドウで制した14年に続く小倉ジャンプS7勝目(小倉サマージャンプを含む。以下、同)。JRA重賞は通算24勝目
- 齊藤崇史調教師は小倉ジャンプS初勝利。JRA重賞は通算23勝目
- ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算36勝目
- 5歳馬の勝利は18年ヨカグラに続く通算6勝目
- ナリノモンターニュは競走中に疾病(鼻出血)を発症したため3周目3コーナー通過後に競走中止

# スマイルスルー Smile Through

牡 鹿毛 2020.4.15生

北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・吉田勝己氏 栗東・齊藤崇史厩舎  
馬名意味・笑顔を絶やさない

サンデースマイルⅡGB系 F1-s

ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo
	マンファスIRE	
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE
スマイルシャワー 鹿毛 2011	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S.
	Tee Kay	
	サンデースマイルⅡGB 鹿毛 2003	Sunday Silence
		Sensation

5代までのインブリード : Nureyev S 5×M5 Hail to Reason M5×M5

## INTERVIEW

伊藤隆行厩舎長(ノーザンファーム早来)

### 確実な成長がうかがえます

このレースへ臨むために1週前から小倉競馬場に滞在しましたが、鞍上を務めてくれた高田潤騎手が付きっきりで調整を行ってくれました。その関係性が勝利という形で証明されたと思っています。連勝中のレース内容を見ても、ハードラーとしての確実な成長がうかがえます。今後の目標はJ・GⅠ制覇となるのでしょうかが、まずは無事に走りきってもらいたいです。



スマイルスルーと高田潤騎手のコンビは最初の生け垣障害を飛越後、逆回りの4コーナーで主導権を奪取。向正面から

軽快なダッシュで飛び出したスマイルスルーと高田潤騎手のコンビは最初の生け垣障害を飛越後、逆回りの4コーナーで主導権を奪取。向正面から

入障4戦目に挙げた初勝利を境に本格化。続く清秋ジャンプSは従来のレコードを3秒も塗り替えて逃げ切り、重賞初挑戦の京都ジャンプSでは2着

のアサクサゲンキに8馬身差をつける圧勝劇を演じた。いくつか低い飛越があつたこの日も、結果的には“着差以上”を感じさせる内容で重賞を連勝。ニシノティイジーの引退により空位となっている障害界の王座へ、このまま一気に駆け上がるか。

### 父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首20戦8勝(ケイーンエリザベスⅡ世C・香G1、アメリカジョッキークラブC GII、日経新春杯GII、金鯱賞GII、鳴尾記念GIII、宝塚記念G1 2着、ジャパンC G1 3着)、13年から供用  
〔代表産駒〕キセキ(菊花賞G1)、メールドグラース(コーキーフィールドC・豪G1)、ソウルラッシュ(マイルチャンピオンシップG1)、ドルチエモア(朝日杯フューチュリティS G1)、マスクドティーヴア(阪神牝馬S GII)、ダンビュライト(京都記念GII)、リオンリオン(青葉賞GII)、ワンダフルタウン(青葉賞GII)、ムイトオブリガード(アルゼンチン共和国杯GII)、エヒト(小倉記念GIII)、グロンディオーズ(ダイヤモンドS GIII)、ヘントール(ダイヤモンドS GIII)、他に重賞勝ち馬多数

### 母スマイルシャワー

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央22戦3勝  
スマイルライン(18 牝父ルーラーシップ)中央8戦1勝  
アエリーゾ(19 牝父ドレフォンUSA)中央24戦1勝  
**スマイルスルー** 本馬(20 牝父ルーラーシップ)中央9戦1勝、障害7戦4勝  
〔小倉ジャンプS J-CIII、京都ジャンプS J-CIII〕獲得総賞金104,594,000円  
(23 牝父ナダルUSA)  
(24 牝父ビッグアーサー)  
※21、22(流産)

### 祖母サンデースマイルⅡ GB

英1勝。09年輸入、23年死亡

フレーキー(10 牝父Redoute's Choice)持込 中央7勝(チャレンジC GIII、ポートアイランドS 0P、清水S、甲東特別、野分特別、タイランドC、エプソムC GIII 2着、新潟大賞典GIII 2着、チャレンジC GIII 2着、中山金杯GIII 3着)  
スマイルシャワー(11 前出)

スマイルミーティア(12 牝父チカステナンゴFR)中央2勝

シーブリーズラブ(13 牝父カジノドライヴUSA)中央1勝、地方0勝、トーセンジエイク(黒潮菊花賞)の母

ハッシュタグ(14 牝父クロフネUSA)中央1勝、地方5勝

ルガールカルム(16 牝父ロードカナロア)中央2勝(アネモネS・L、クロッカスS・L 2着)

マンオブスピリット(17 雄父ルーラーシップ)中央2勝(つばき賞、京都新聞杯GII 2着)、地方0勝

ホウオウサンデー(18 牝父キングカメハメハ)中央2勝 緑

ブリスキー(20 雄父ハービンジャーGB)中央1勝 緑

## 4連勝で障害界の王座へ一步近づく

従来は夏に行われていた小倉サマーJ-GIを冬の開催へ移設。名称も“小倉ジャンプS”と改め、1年の障害重賞の開幕戦と位置付けられた一戦は、フルゲートの14頭立てで争われた。なかでも単勝1・6倍と圧倒的な支持を集めながら、未勝利戦から昨秋の京都ジャンプSまで3連勝中のスマイルスルー。華々しい勢いで出世の階段を駆け上がってきた新星は背負った期待に応えて逃げ切り、頂点の座へまた一步近づいた。

軽快なダッシュで飛び出したスマイルスルーと高田潤騎手のコンビは最初の生け垣障害を飛越後、逆回りの4コーナーで主導権を奪取。向正面から

勝を記録している10歳の古豪、2番人気のアサクサゲンキがこれを横目に好位へ上がり、追撃態勢を整えた。

快調に風を切り、向正面に差し掛かったスマイルスルーは、昨年の阪神ジャンプSの覇者サペラヴィにプレッシヤーをかけられても先手を譲らず、3コーナーから再びリードを広げにかかる。突き放されたサペラヴィにかわってサイドが2番手に浮上。直線の最終障害を飛越後は2頭の一騎打ちとなつたが、迫られてもうひと伸びしたスマイルスルーが相手の反撃を抑え込み、4連勝のゴールを駆け抜けた。

昨年1月に障害へ転向した本馬は、4連勝のゴールを駆け抜けた。

重賞初挑戦の京都ジャンプSでは2着のアサクサゲンキに8馬身差をつける圧勝劇を演じた。いくつか低い飛越があつたこの日も、結果的には“着差以上”を感じさせる内容で重賞を連勝。ニシノティイジーの引退により空位となっている障害界の王座へ、このまま一気に駆け上がるか。